久我記念美術館

1・2月企画 1月10日～2月22日
（月曜休館・祝日の場合は翌日休館・入場無料）

岩田 秀昭 展

“MINARET（ミナレット：光の塔）”

久我記念館では岩田秀昭展を開催します。会期は２月２２日までとなっています。

会期中に館外で、自然の環境との一体感を感じるガラスを用いた、パフォーマンスを行う予定にしています。

たくさんのご来場をお待ちしています。

平成16年年間スケジュールが決まりました

久我記念館の年間スケジュールが次のとおり決まりました。

本年も、さまざまなジャンルの作家の作品が、壁面を飾ります。会期などの詳細については、この広報「すえまち」でお知らせしていきます。

平成16年久我美術館年間スケジュール（予定）

期　日	個展名	ジャンル
1月10日～2月22日	岩田　秀昭　展	ガラス
3月	谷口　路子　展	油彩・コラージュ
4月3日～29日	３人展（黒岩裕美子ほか）	デッサン
5月3日～24日	伴　信行　展	書
6月	青柳　栄生子　展	油彩
7月	３人展（山口・久保・伊藤）	書・パッチワーク
8月	山本　隆明　展	彫刻
9月	村上　省吾　展	油彩
10月	第１０回須恵美術クラブ展	
11月	第６回パッチワーク展	
12月	未定	

粕屋地区美術展開催

第３１回糟屋地区美術展（糟屋郡文化協会連合会主催）が、11月12日から18日まで、古賀市民体育館で開催されました。

会場には、日本画、洋画・デザイン、ン、工芸・彫刻、書、写真の5部門に288点の作品が展示されました。

この美術展で、本町から次の人たちが入賞されました。

（敬称略）

●糟屋地区文化協会連合会長賞
百田　淳子（工芸・彫刻）
田中　義郎（写真）

●糟屋地区議長協議会長賞
原田サト子（洋画・デザイン）
安河内嘉輝（写真）

●奨励賞
佛坂　忠彦（工芸・彫刻）
内田　義春（写真）

まちの史跡めぐり……㉒

町文化財専門委員　石瀧　豊美

申年に思う
庚申尊天と猿田彦大神

平成十六年は甲申（こうしん・きのえさる）の年です。ふつうは申年と言うだけですが、十干十二支（簡単に干支）では甲申となります。十干は甲乙丙丁戊己庚辛壬癸を指し、十二支は子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥のことですね。十干十二支は十干の一文字と十二支の一文字を組み合わせたもので、十干の奇数番目は十二支の奇数番目と組み合わせ、十干の偶数番目は十二支の偶数番目と組み合わせることになっています。例外なくそうなります。

というのは、最初は甲と子、乙と丑というふうに、十干の一番目と十二支の一番目を組み合わせ、後は順次、二番目と二番目、三番目と三番目というふうに組み合わせるのですが、ちょうど十番目、十干の「癸」と十二支の「酉」を組み合わせたところで、十干は尽き、十二支の十一番目と十二番目が余ります。そこで、再度スタートにもどり、十干の一番目「甲」と十二支の十一番目「戌」を組み合わせ、十干の二番目「乙」と十二支の十二番目「亥」を組み合わせ、十干の三番目「丙」は十二支のスタートにもどって「子」を組み合わせるというふうに、ずらしていきます。そんなわけで、必ず十干の奇数番目は十二支の奇数番目としか結びつかず、偶数番目も偶数番目としか結びつかないというわけです。

この調子で、組み合わせると以下の通りになります。

甲子・乙丑・丙寅・丁卯・戊辰・己巳・庚午・辛未・壬申・癸酉・甲戌・乙亥・丙子・丁丑・戊寅・己卯・庚申・辛巳・壬午・癸未・甲申・乙酉・丙戌・丁亥・戊子・己丑・庚寅・辛卯・壬辰・癸巳・甲午・乙未・丙申・丁酉・戊戌・己亥・庚子・辛丑・壬寅・癸卯・甲辰・乙巳・丙午・丁未・戊申・己酉・庚戌・辛亥・壬子・癸丑・甲寅・乙卯・丙辰・丁巳・戊午・己未・庚申・辛酉・壬戌・癸亥

癸亥は十干の十番目と十二支の十二番目ですから、次はまた甲子に戻り、以下繰り返すことになります。つまり、十干十二支の組み合わせは六十通りしかないので、一歳から六十歳までで一回りしたことになり、六十一歳には一歳の時の干支を繰り返すことになります。これが「還暦」の由来になります。日本の社会の古い常識では、数え年の十五歳から六十歳までの男性が一人前の人間とされていたのですが、六十歳で切るのは「還暦」の発想によって、六十歳で終わりとしたことによるのでしょう。

日本史で習った「壬申の乱」は六七二年が壬申の年だったからであり、「戊辰戦争」は一八六八年が戊辰の年だったことによる命名です。

「辛酉革命」とは中国で、辛酉の年には「革命」（命をあらためると読み、王朝が交替すること）があると考えられたことを言い、日本にも伝わって、辛酉の年に改元（元号を改める）が行われたそうです。為政者にとっては辛酉の年は不吉なものだったのです。こうなると、人々は干支に操られていたと言えそうです。

甲申を「きのえさる」とも読むのは、さらに陰陽五行説を考えなければなりません。五行とは自然・人事の現象を五つの要素（木・火・土・金・水）で説明しようとするもの。それに陰と陽の二つを組み合わせたものが陰陽五行説です。五行は現在の曜日にも反映していますね。日月・五行（木火土金水）から七曜ができています。

陰陽五行説では五行のそれぞれに「え（兄＝陽）」と「と（弟＝陰）」の区別があります。それで、きのえ・きのとから始めて、順に　甲　乙　丙　丁　戊　己　庚　辛　壬　癸　と読むのです。

町内でも路傍や田のあぜに「庚申尊天」とか「猿田彦大神」と書かれた石碑をよく見かけますね。庚申尊天は中国から伝わった庚申信仰に由来するもので、それが日本古来の猿田彦と同一視されることになりました。

庚申信仰は六十日に一度めぐってくる庚申の日を、寝ないで過ごすというものです。庚申の日に寝てしまうと、人間の体に住みついている虫が抜け出して、人間の悪い行いを天帝に報告する。それをされると寿命が縮まってしまう。それで、その報告を邪魔するために徹夜をすることになります。時代とともにさまざまな御利益が加わって、庚申信仰は豊作祈願にもなりました。

猿田彦は古事記・日本書紀に出てくる神話の中の神で、天孫降臨の時に高千穂への道案内を勤めたとされています。猿は馬の病気除けの信仰があったとされ、猿「田」という名前とも結びついて、猿田彦を祀ることがやはり豊作祈願となったのでしょう。

毎年、初庚申の日には福岡市早良区藤崎の猿田彦神社がにぎわいます。この日だけ売り出される、手のひらサイズの小さな土製の猿面を求める人たちが詰めかけるからです。猿は「去る」に通じるというわけで、災難除けにこの猿面を玄関にかけている家をよく見かけます。ここでは猿田彦への信仰が庚申信仰と重なっていることがよくわかりますね。